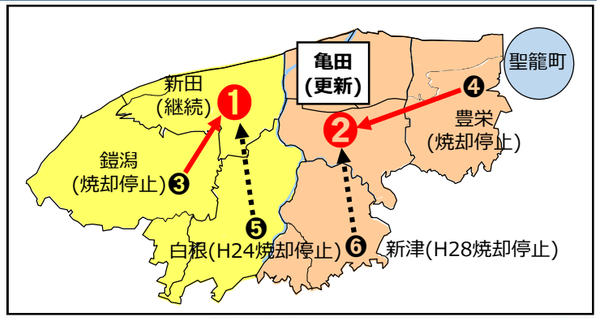
新焼却施設整備（亀田清掃センターの建替え）について

資料５

１．新焼却施設整備の背景

現状と課題

- 平成の合併後、2施設停止(中継施設化)
- 稼働中の3施設が老朽化(豊栄、亀田、鎧潟)
- 今後の人口推移に基づくごみ量減少
- 施設の効率化に向けた再整理



今後の体制

亀田清掃センターを建て替え、新田清掃センターとの2施設体制
亀田（豊栄・新津）　新田（鎧潟・白根）

- 豊栄、鎧潟は持込みごみ受入を継続
  → 統合後も**市民サービスを維持**
- 本市と豊栄郷清掃施設処理組合を構成する聖籠町
  → **新発田地域広域事務組合に移行(予定)**

２．施設整備の基本方針

- 新焼却施設の設計・施工・運営における基本方針を次のとおり策定

1.環境にやさしい	2.安心・安全	3.低炭素社会を推進	4.災害に強い	5.経済性
排ガス等による環境負荷の低減	安定で確実な処理	省エネルギー、効率的な発電	防災拠点活用、災害時の早期処理	ライフサイクルコストの低減、売電収入の増

３．新焼却施設に関する基本項目

処理方式

ストーカ式焼却

- 全国7割以上の施設で採用
  → 事業者選定の**競争性確保**

施設規模

処理能力：420t/日
炉構成：140t/日×3炉

- 災害分等を含む

発電（見込み）

発電能力：12,000kW
年間発電量：66,000MWh/年

- 発電量は現施設の約2倍、約22,000世帯分

事業方式

DBO方式

- 施設の設計・建設・運営を一括して発注する方式
- 民間事業者のノウハウによる適正かつ効率的な運転及び施設性能の確保

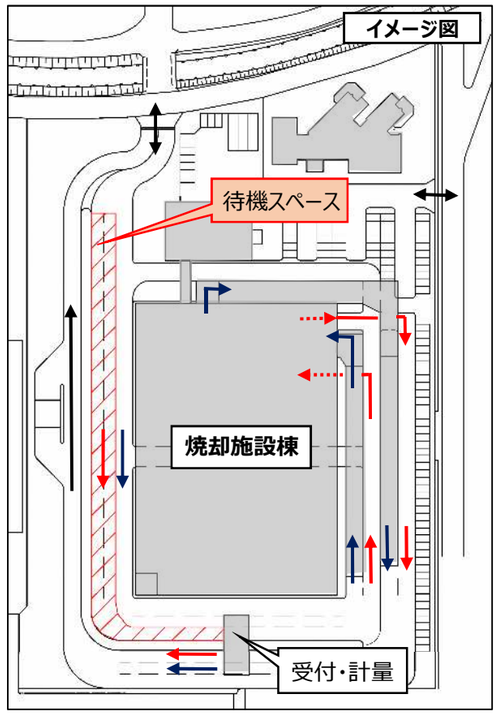
公害防止（排ガス）

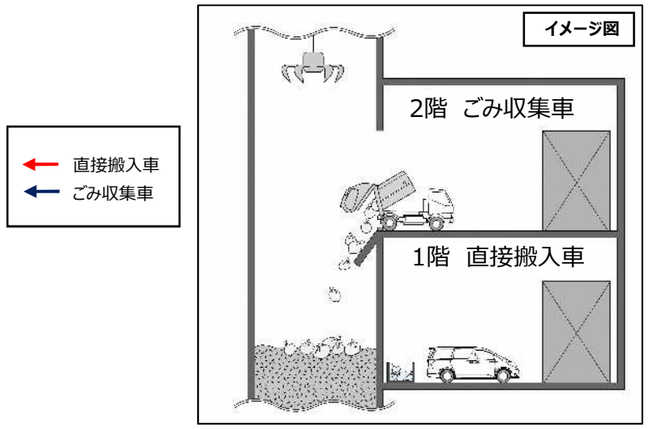
（12%O2換算値）

項目	単位	法基準値	新施設自主基準値
ばいじん	g/m³N	0.04	0.01
塩化水素	ppm	430	30
硫黄酸化物	ppm	3,000(※)	20
窒素酸化物	ppm	250	50
ダイオキシン類	ng-TEQ/m³N	0.1	0.1
水銀	μg/m³N	30	30

(※)想定される排ガス量、煙突高さ59mの場合の概算値

配置イメージ





【課題】
- 直接搬入車増による道路渋滞
- 車両動線の安全対策

【対策】
- **構内待機車両動線の増設**
- **ごみ収集車と直接搬入車両の分離化**
- 荷下ろし場の増設、円滑な精算システムの検討

周辺道路環境

外灯整備検討
敷地内に夜間交通の安全確保のため、**外灯の設置を検討**

収集車搬入出経路
住宅地周辺を避けたルート設定**(集約化)**
(R4年1月から一部実施)

周辺道路整備
- 区役所と連携し検討

余熱利用施設検討

田舟の里（附属休憩所）継続利用

- 他の活用手法を検討

防災機能

- **避難所機能**　・補助的な避難所　・150人程度収容
- **備蓄機能**　・市の備蓄拠点活用
- **その他機能**　・田舟の里(お風呂)活用

４．整備事業スケジュール（想定）

動き / 年度	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7～R11	R12～
計画策定	● 一般廃棄物処理基本計画(焼却施設の統合、亀田建替えの方向性)			● 施設整備基本計画				
地元説明					適 宜 実 施			
環境影響評価								
事業手法の検討及び事業者選定			PFI等導入検討		発注準備・事業者選定			
建設工事								
施設稼働								
現施設解体(予定)								